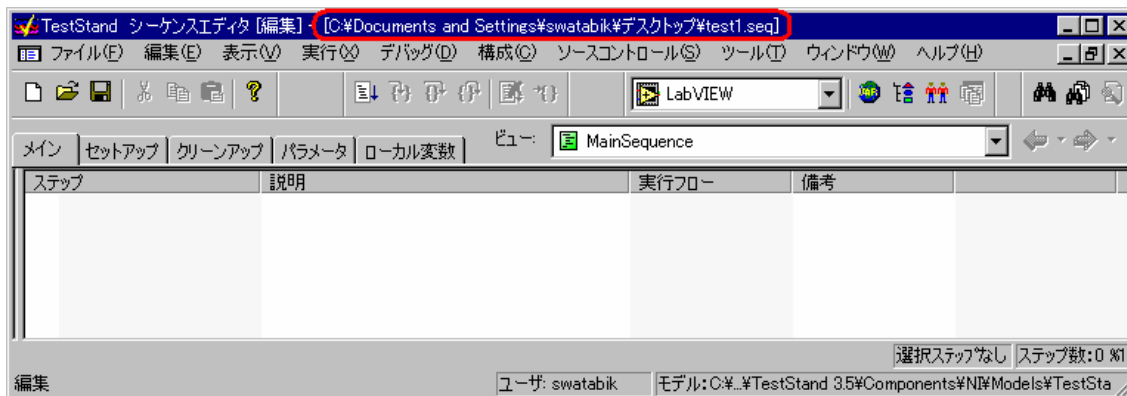


プロセスモデルそのものを編集せずに動作をカスタマイズさせる方法

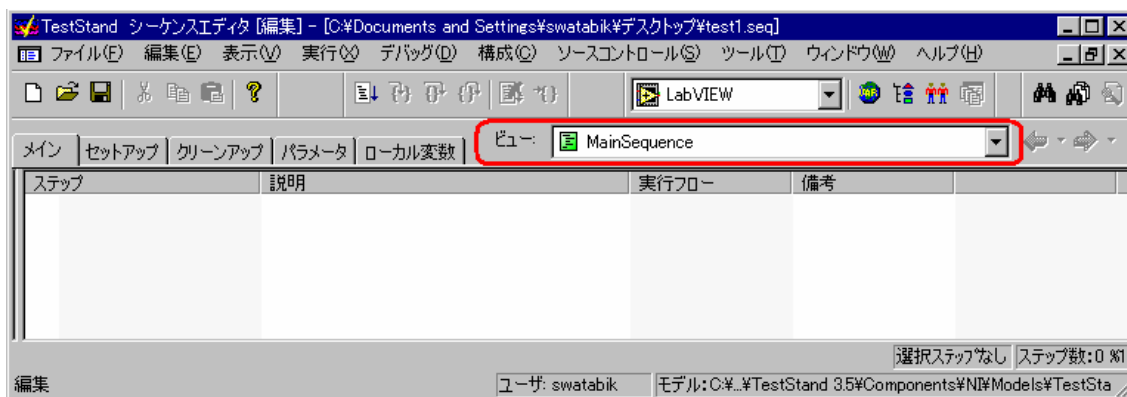
ここでは TestStand に標準で備わっているプロセスモデルシーケンスファイルそのものを編集せずに、プロセスモデルの動作をカスタマイズさせる方法を解説します。

例として、PreUUT モデルコールバックをプロセスモデルシーケンスファイルの外から編集します。

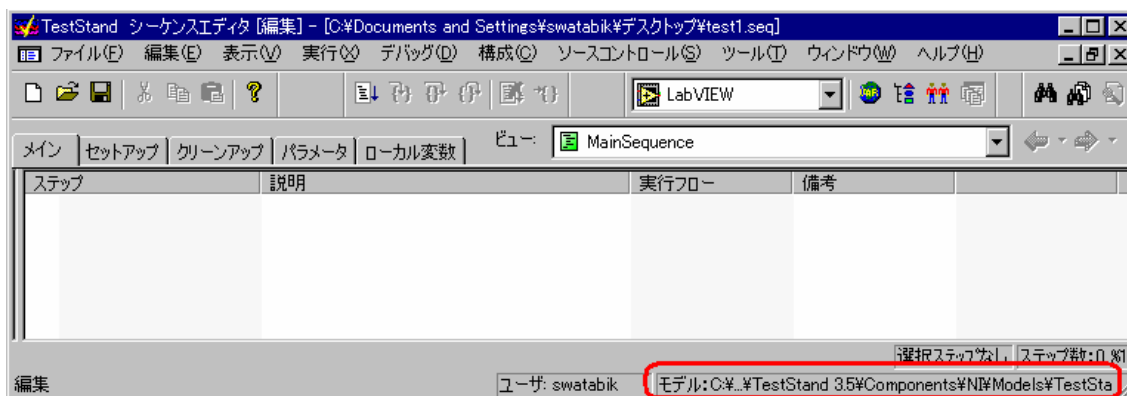
1. TestStand を立ち上げて、新規シーケンスを開き、任意の名前で保存する(ここでは、デスクトップに “test1.seq” という名前で保存する)。

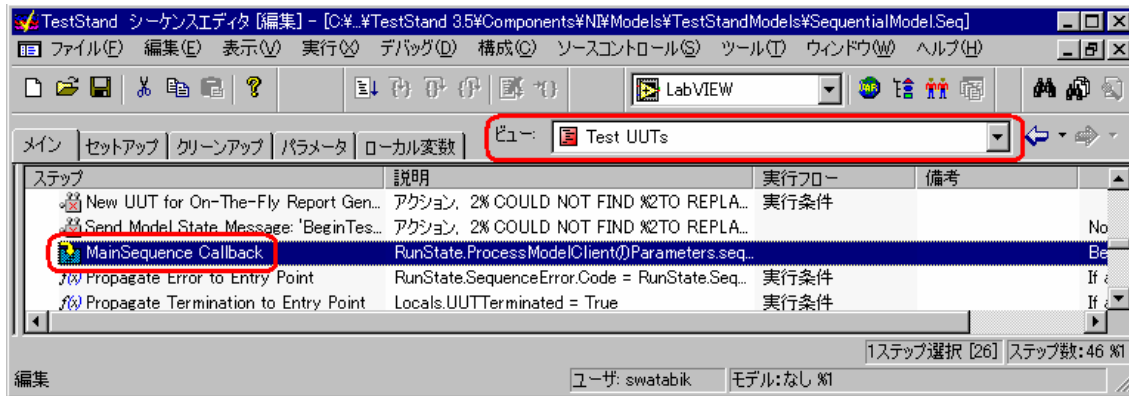
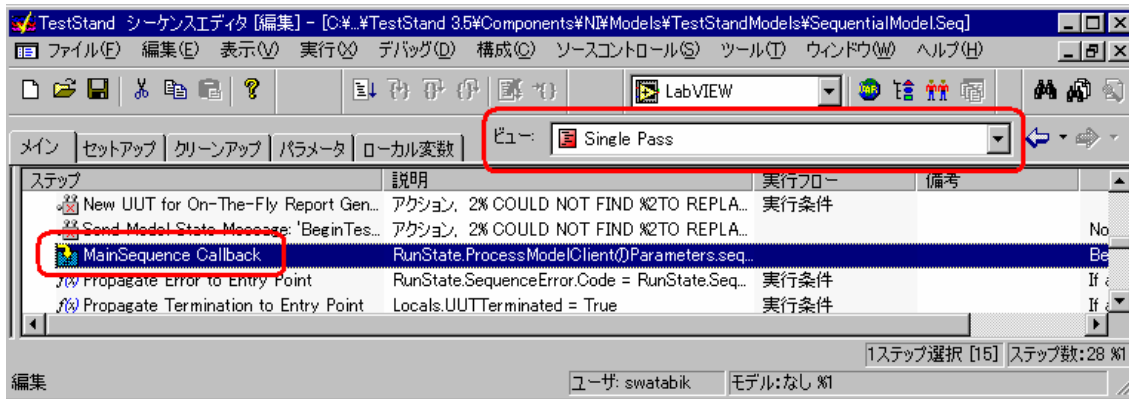


2. 通常ユーザが作成するシーケンスファイル(MainSequence)は、プロセスモデルの中の MainSequence Callback よりコールされていることを確認する。

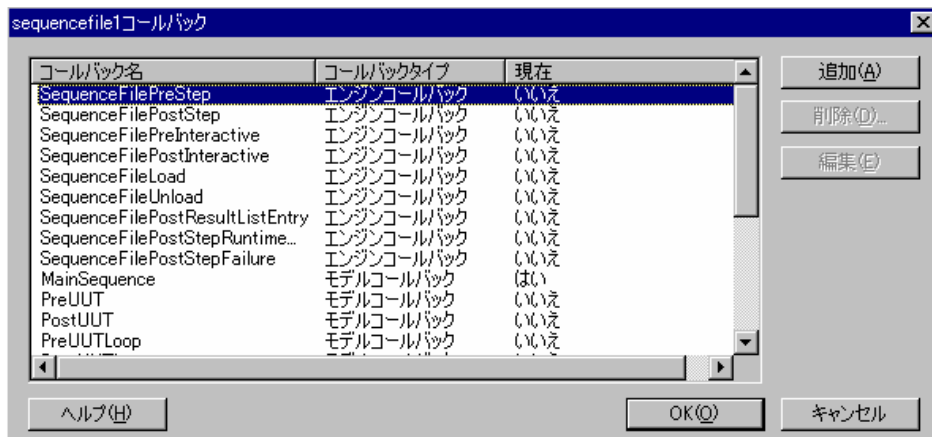
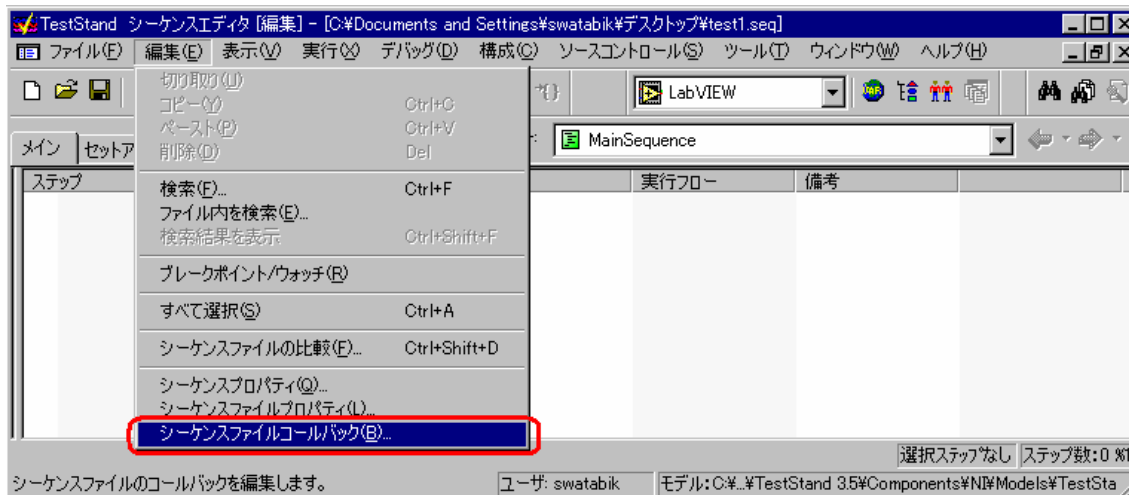


プロセスモデルを開くには、右下のパスをダブルクリックする。

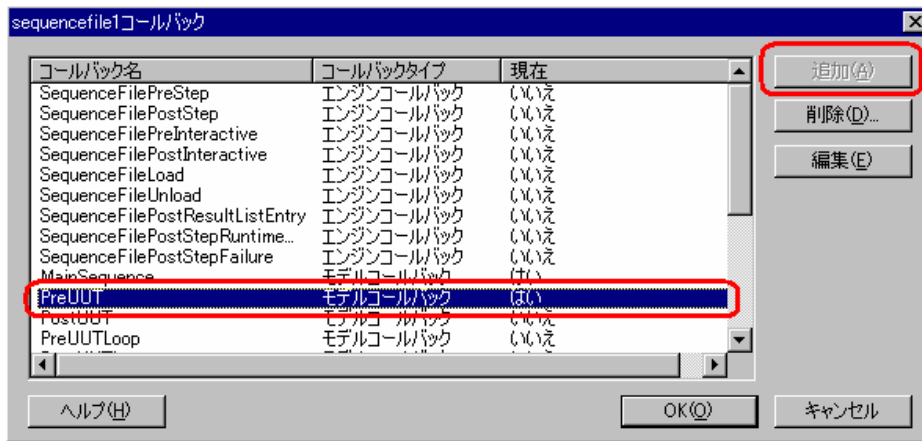




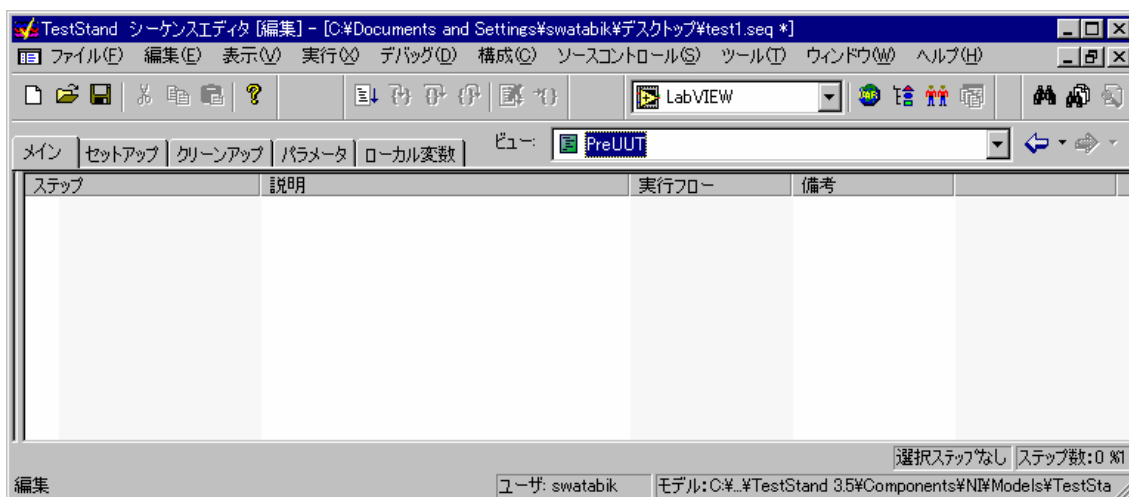
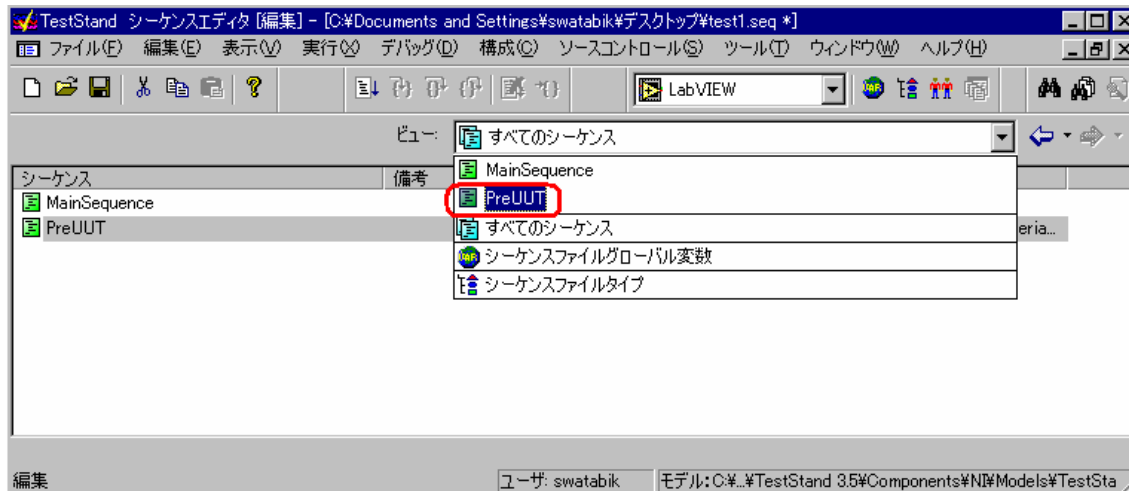
3. 編集メニュー シーケンスファイルコールバック を選択する。

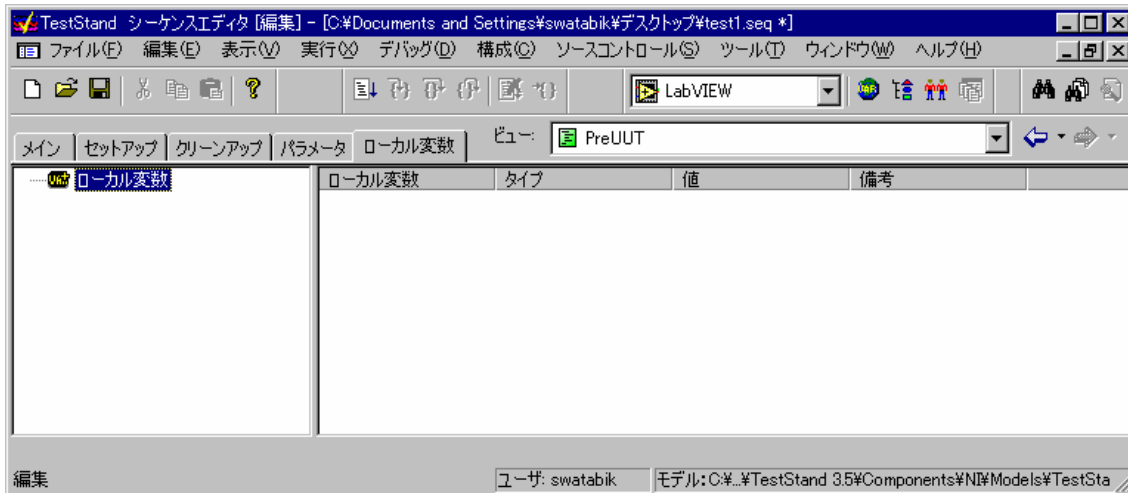
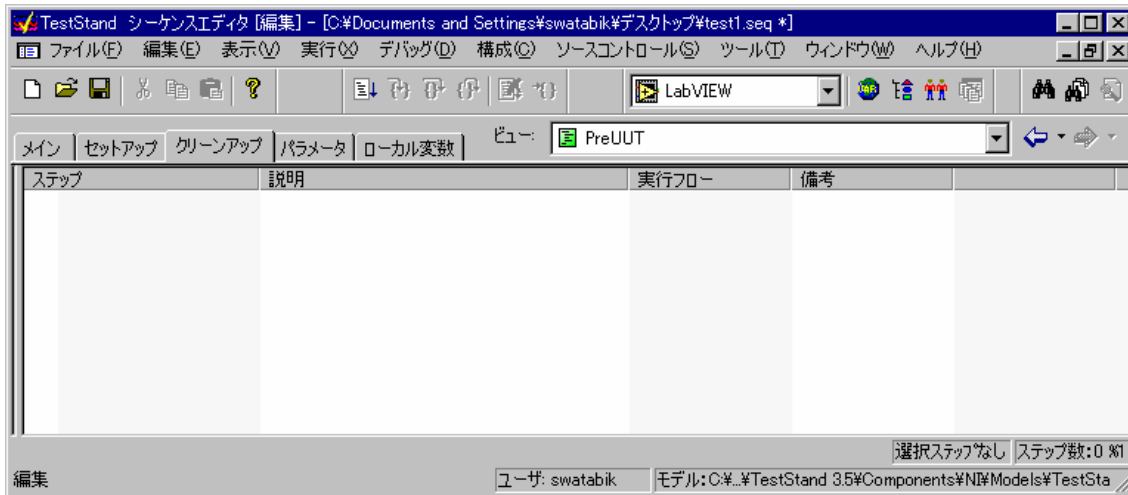
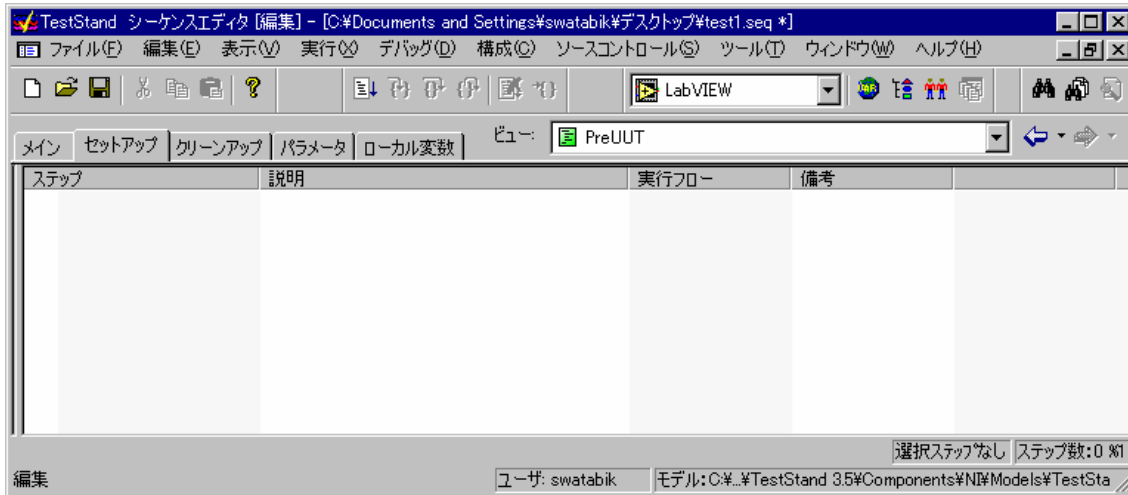


4. PreUUT を選択して "追加" をクリックして、MainSequence に PreUUT を追加する。

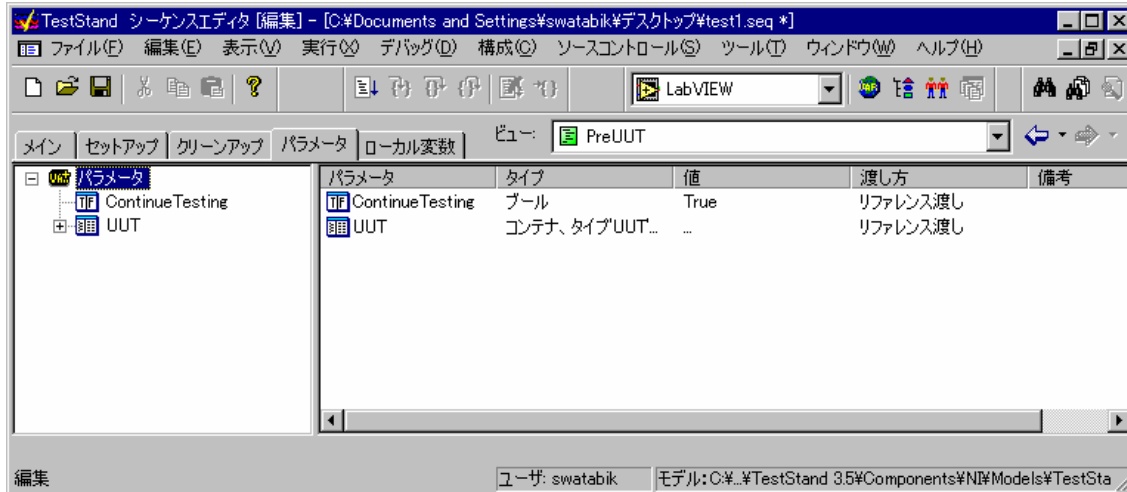


5. MainSequence に PreUUT が追加されたことを確認する。なお、追加された PreUUT モデルコールバックにはステップとローカル変数が存在しないことを確認する。

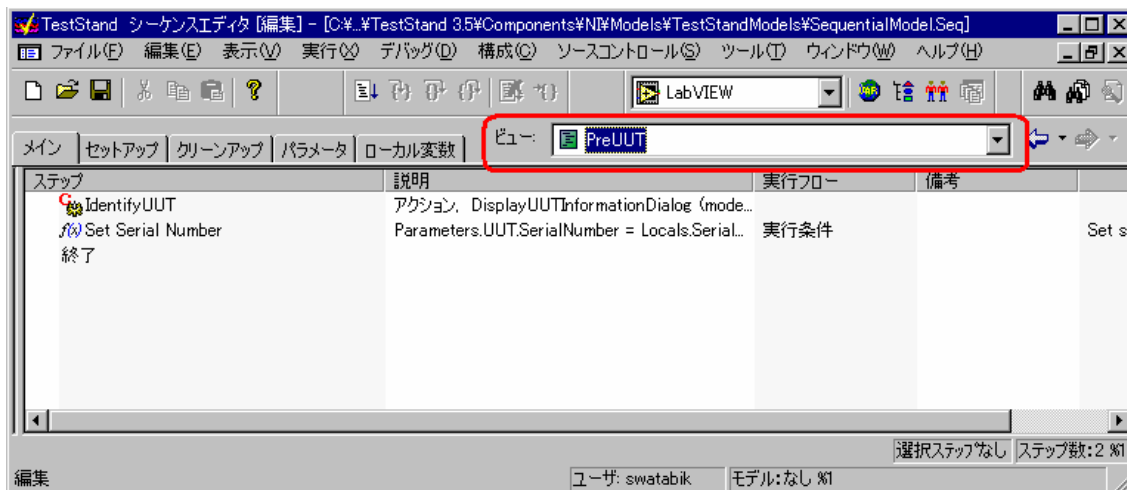
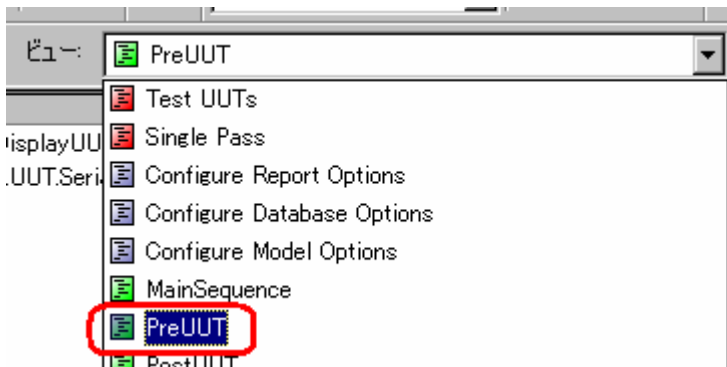




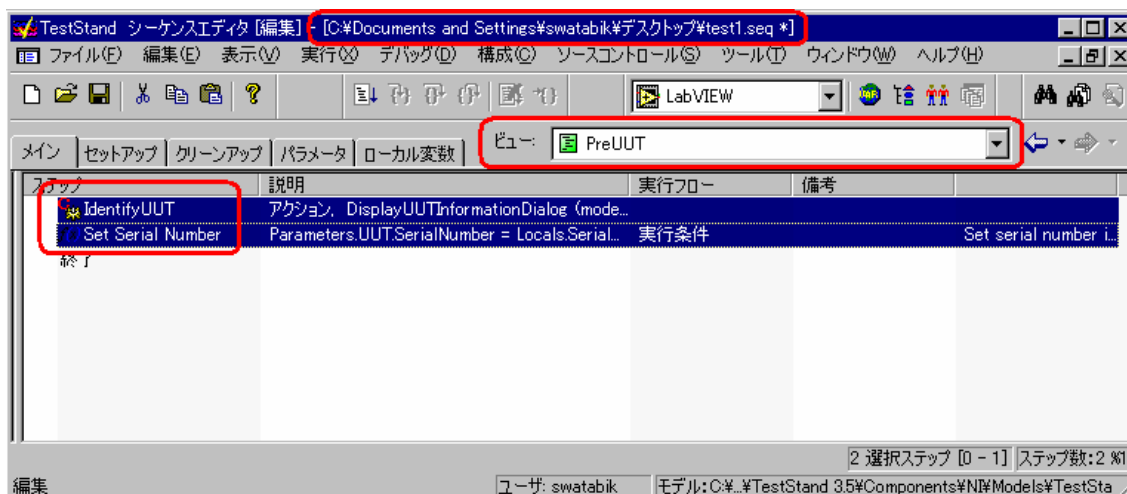
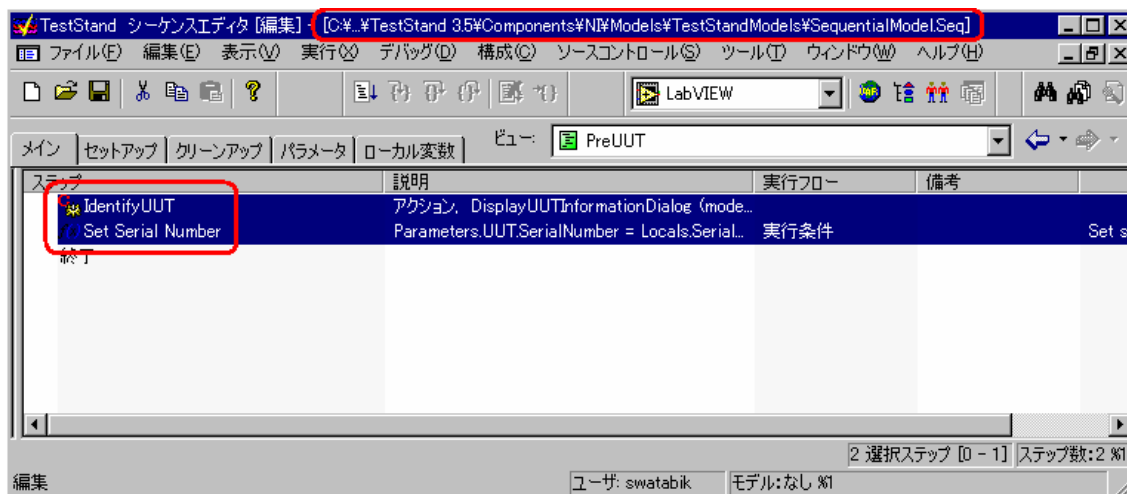
6. パラメータが含まれていることを確認する。



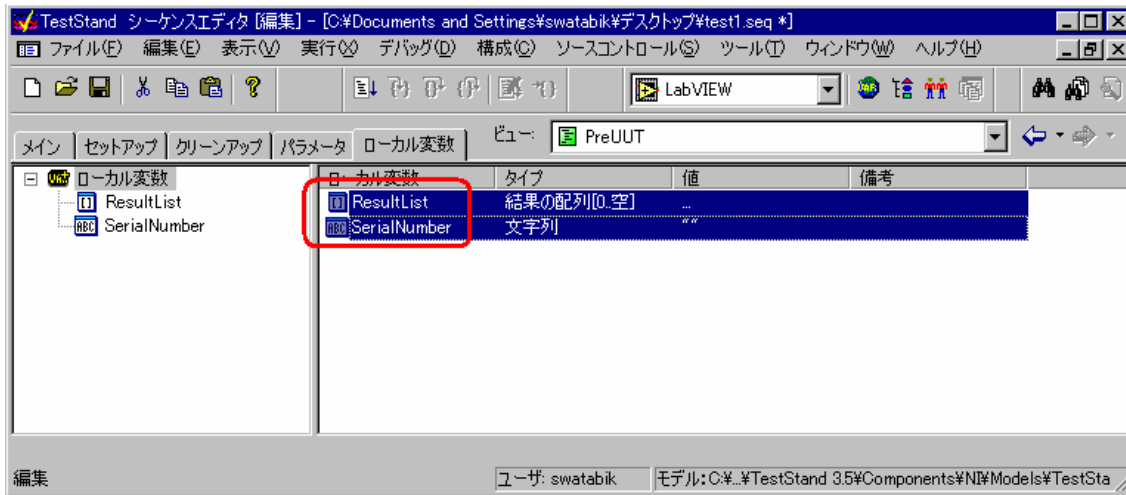
7. プロセスモデルを開き、ビューリングより PreUUT を選択する。



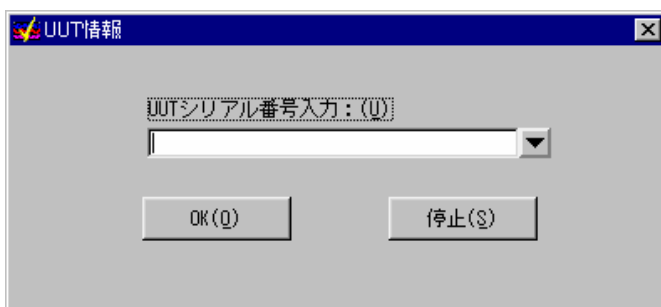
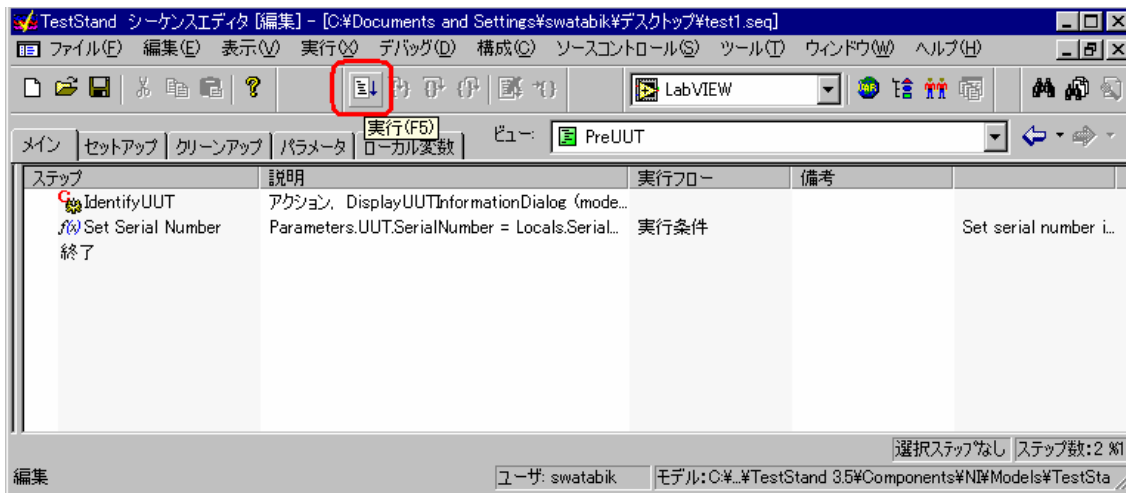
8. メインタブに含まれる2つのステップ (IdentifyUUT、Set Serial Number) をコピーして、test1.seq 中の PreUUT のメインタブの中に貼り付ける。



9. 同様に、セットアップタブとクリーンアップタブについても、プロセスモデルの中の PreUUT に含まれるステップを、test1.seq 中の PreUUT のメインタブに貼り付ける。ローカル変数タブについても同様に行う。(ステップやローカル変数がない場合には行う必要はない。)

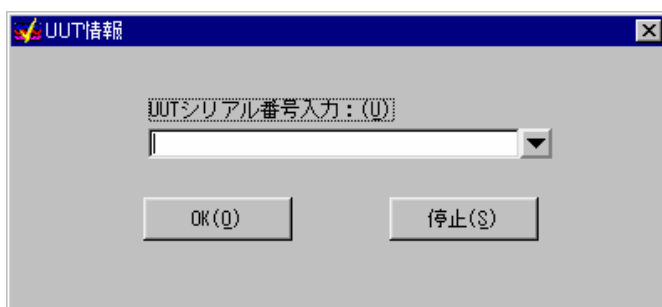
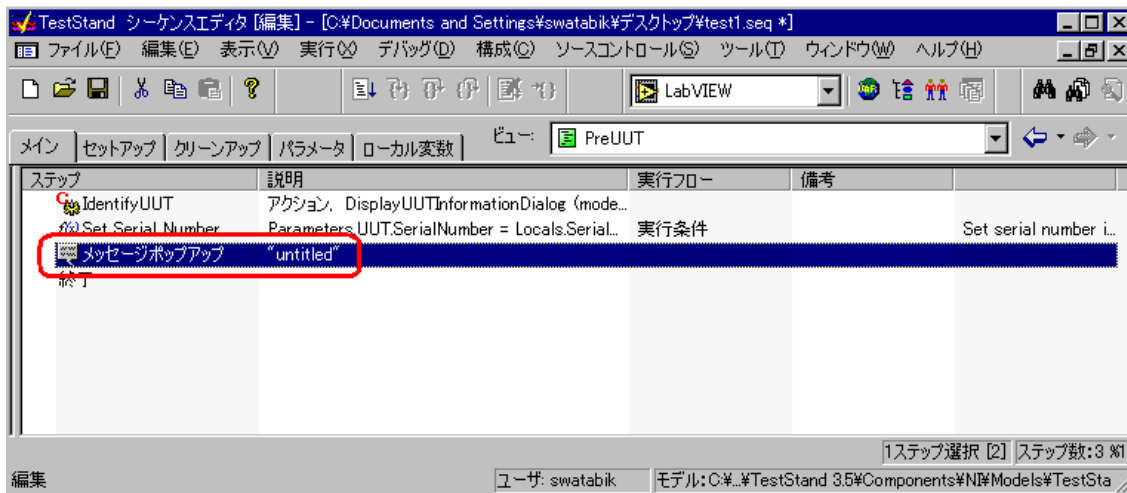


10. この状態でシーケンスを実行させると、全く新規のシーケンスを実行させたのと全く同じように振舞い、UUT 情報ダイアログと UUT の結果ダイアログが交互に表示される。



11. 次に test1.seq の PreUUT シーケンスの中のメインタブにメッセージポップアップステップを追加してから、シーケ

ンスを同様に実行する。すると UUT 情報ダイアログと UUT の結果ダイアログ以外に追加したメッセージポップアップステップが実行されることを確認できる。



このようにして、コールバックを MainSequence に追加して、MainSequence の中でシーケンスを編集することで、プロセスモデルシーケンスファイルそのものを編集せずに、プロセスモデルの動作をカスタマイズすることができる。